



侃斯達篤

卷之六

ヤ 4
1435
6



74
1435
6

侃斯達篤卷之六

侍醫法眼

坪井良信良譯

滋養乏少

局部滋養乏少ハ、一部ノ營養機能不給シ、瘦削ス
ル者ニテ、全身滋養乏少スル者トハ自ラ別アリ
滋養乏少ハ、滋養過多ノ如ク、機生體健康時ニ
於テ、某ノ時限ニ發スル者アリ、生活運營經過
中、諸般ノ部、漸次ニ其機能ヲ失シ、定時ニ及ヘ
ハ全ク止ム者アリ、而メ其質ハ變スルナシ、



夫レ臍系、胸腺、副腎ハ、胎兒ニ於テハ、緊要ノ器ナレバ、生後ハ大ニ滋養減少ス、則チ血行ノ一大要部タルノ脈管、臍狀ノ系トナル、婦人ニ於テハ生殖機能廢止スレハ、乳房、子宮萎縮シ、男子ニ於テハ、睪丸萎縮ス、然リ而シテ疾病ヲ發スルトナシ、然レバ高年ニ及テ、滋養乏少トナル器ニ發スル抵抗、或ハ健康必要ノ機能ヲ妨ケ、或ハ大ニ他病ノ誘因トナルトアリ、故ニ健康自然機能ナルモ、却テ之ヲ病性變化ト云ハサルヲ得サルトアリ、

滋養乏少ハ、滋養過多ノ如ク、全部、全系ニ及フアリ、又纔カニ一部ニ盡スルアリ、滋養乏少スレハ、其部ノ組織、血液減少シ、乾燥シテ柔軟ノ質ヲ失シ、薄クノ臍ノ如ク、不透明トナル、筋肉、皮下組織ハ、大ニ瘦削シ、外皮直チニ骨ニ接スルカ如ク、關節ノ凹凸隆陷歴歴視ルヘキニ至ル、組織ノ滋養減少スレハ脂肪亦減少ス、是レ此病ノ第一兆ナリ、粘液膜滋養減少スレハ、極テ薄ク透明トナリ、破裂シ易ク、且ツ軟解ス、皮膚ハ韌カ張力彈力ヲ失シ、破裂シ

易ク、乾燥柔軟皺縮シ、極テ薄弱トナリ、毛髮ハ
白色トナリ脱落ス、

骨ノ滋養不給ハ、發育ノ機障害アルニ由テ、早
歳ニ之ヲ見ルコトアリ、全身骨格壯年ニ及ンテ
尚童兒ノ如クナルアリ、骨骸ノ各部例之頭蓋
骨、面部骨、胸骨、四肢骨ニ於テ屢之アリ、滋養減
少スレハ、諸骨脆薄瘦削、其重量ヲ減シ、内質疎
鬆トナリ、或ハ相密接ス、又内質溝狀ヲナシ、其
空隙篩ノ如シ、扁平ナル骨ノ内質唯膜質ヲ以
テ盈ルノミ、諸骨脆弱トナリ、長キ管狀骨ハ、短

縮シ、隨テ四肢苦クハ、全身短縮ス、
腱質及ヒ纖維質ノ部ハ、滋養減少スレハ、本原
ノ單純組織トナリ、全然消滅スルカ如シ、麻痺
セル四肢ノ筋ニ於テ見ル所ナリ、滋養減少ス
ルニ由テ、靱帶、筋等短縮スレハ、其部撓屈ス、或
ハ其筋變性シテ脆弱破裂シ易シ、心藏滋養減
少スレハ、緣肉薄クメ膜ノ如シ、諸筋ノ赤色一
半或ハ全ク消滅ス、動脈ノ衣膜ハ、薄ク内空縦
廣トナルアリ、或ハ否ラサルアリ、動脈、列印巴
脈亦同シ、而メ列印巴腺ハ乾燥シテ硬ク、流液

ヲ注入スルモ通セス、腦ノ全部或ハ一部、滋養減少ハ、形質常ヲ失ス、則チ腫瘍、贅骨、水液瀦留等ノ壓迫ニ由ル所ナリ、又脊髓全部、或ハ一部、滋養減少シ、髓質全ク消滅スル者アリ、麻痺スル部ノ神經ハ、常ニ滋養減少ス、然レモ神經ノミ滋養減少シテ、他部妨ケナク、他部ハ瘦削スレモ、神經少異ナキ者アリ、肺藏滋養減少スレハ、乾燥シテ膜ノ如ク、氣胞ハ膨大トナリ、實質ハ消滅ス、又氣管ノ枝末、及ヒ氣胞膨脹シ、巴連舎麻ヲ損害スル者アリ、是レ肺ノ滋養減少

其ノ一種ナリ、又滲出液ニ由リ、假膜全肺ヲ被包スルニ由リ、又年齢ニ由テ發スル者、自ラ別アリ、肝藏滋養減少スレハ、緻密乾燥、灰白色トナル、脾ハ多クハ萎縮ス、腎ハ軟ニシテ小ナリ、生殖器滋養減少亦然リ、

原因

局部滋養不給ニ先天ノ者アリ、後天ノ者アリ、甲ハ胎兒タルノ時、發生營養ノ機障害アルニ由ル所ナリ、諸般ノ畸形多クハ是ニ屬ス、今先ツ乙種ヲ説クヘシ、

夫レ各自ノ部、十全ノ滋養ヲ得ル所以ハ、其部ノ
 實質同化シ、固有ノ妙機ヲ營ミ、神經ノ作用常ニ
 過不給ナク、血液滋養質ヲ輸送シ、物質ノ費耗ト
 補給ト平均ヲ得、又其部滋養質ヲ攝取シ、之ニ抵
 抗スルニ適合スル等ノ諸件ニ由ルナリ、故ニ此
 諸要件中、缺損スル所アレハ、則チ滋養之少トナ
 ルナリ、

一 一部機能ヲ廢スレハ、滋養物ト親和シ、之ヲ同
 化スルノ運營ヲ失ス、運營ヲ失スルノ部ハ、必ス
 其形容減小ス、動搖セサルノ筋ハ、滋養減少シ、血

液運輸セサルノ脈管ハ、萎縮シ、肛門閉合スルコ
 アリテ、腸ノ一局部機能ヲ失スレハ、収縮シ、筋質
 薄弱トナル、膽囊中膽汁空シケレハ、萎縮ス、畢九
 子宮、乳房、腦等機能ヲ失スレハ、皆滋養之少ス、
 二 神經機能減少シ、或ハ廢止スレハ、其部滋養不
 給ス、麻痺スルノ部是ナリ、麻痺久シク治セサレ
 ハ、其部滋養不給ス、手足麻痺スレハ、瘦削ス、黒障
 眼ハ、滋養減少ス、但シ其原機能減損ナルヤ、補給
 神經ノ疾患ナルヤ、將夕血液輸送ノ少ナキニ由
 ルヤ、之ヲ決スルコト能ハス、腦髓或ハ脊髓ノ器械

性疾患ニ由テ、滋養乏少スル者多シ、故ニ神經機能大ニ關係スル者タルヲ知ルヘシ、局部ノ神經壓迫、變質、緊縛、截斷、創傷等ニ由テ、發スル四肢ノ麻痺ハ、中點部ヨリ發スル麻痺ニ比スレハ、更ニ危險ニシテ、經過急速ナリ、

三其部ヲ滋養スルニ、必須ナル血液ノ量減少スレハ、滋養乏少トナル、但シ血液ノ減少、頓發ノ者ニ非ス、漸ヲ以テスル者ヲ云フ、

局部ノ血液運輸徐徐ニ減少スル時ノミ、則チ滋養不給ヲ爲スナリ、若シ夫レ卒然トシテ全然

休止スレハ、即チ死敗ス、

滋養乏少ト血液減少トハ、同一時ニ發スル者多シト雖、各種ノ血液減少、皆直チニ滋養乏少トナルニハ非ス、

動脈或ハ細脈管愈着、老人ニ炊衝、壓搾、化骨等ニ

由テ、變質スルハ、滋養減少ノ最原ナリ、一局部ニ

於テ血液運輸障害アリテ、滋養乏少スルニハ、必

ス細脈管ノ血行モ休止スルヲアルナリ、今人工

ニテ腫瘍ヲ生シ、或ハ動脈ヲ緊紮スレハ、則チ滋

養乏少ナラシムベシ、

四 血液中滋養ノ成分減少スレハ、費耗セル器質ヲ適宜ニ補給スルヲ能ハス、外來滋養物不給、食餌不良、乳糜製造失宜、同化失宜、肺、消食諸器、腸間膜腺ノ慢性諸病、皆以テ全身瘦削ヲ起スニ足ル故ニ敗血病、消耗病、貴要部變質ニ於テハ、滋養乏少トナル、或ハ及テ利尿諸器、乳房腫瘍、或ハ他病、又直腸癌腫ヲ發シテ、全身ノ滋養乏少トナラサル者アリ、血液製造失宜ノ遠因ハ、粗惡不消化ノ食物ナリ、又鉛毒、水銀毒、砒石毒ニ由テ、滋養乏少ノ體質トナル者アリ、

五 物質ノ費耗スルヲ同化ノ機ニ越ユレハ、消滅シ去テ、補給スルヲ少ナク、隨テ滋養乏少トナル、故ニ高老ノ人、脱血、排泄過多、血液、乳汁、精液ヲ費スル多ク、膿汁過多等、滋養乏少トナルナリ、

六 滲出過多、化膿ニ由テ、其部ノ底面、全ク滋養ヲ得ルヲ能ハサル者アリ、是レ滋養乏少ハ、燂衝ノ續症ナリトスル説ノ起ル所以ナリ、但レ燂衝ト滋養減少トハ、自ラ相及スルノ別アリ、唯燂衝ハ、滋養減少ヲ發スル一遠因ト云フヘキノミ、

七 内外ヨリノ壓迫ニ由テ、其部滋養乏少トナル

者アリ、是レ一ニハ其部細尿管ノ血行ヲ妨クル
 ニ由リ、一ニハ其機能ヲ障害スルニ由ル、動脈瘤
 ノ搏動留連スルニ由テ、近傍ノ部滋養乏少トナ
 ル者アリ、支那人織脚ナルハ、綁縛スルニ由ルナ
 リ、又各種ノ腫瘍、内部ノ滋養乏少ヲ發ス、胸腔腫
 瘍、橫膈焮衝ニ由テ、心藏滋養乏少トナルカ如シ、
 病理

上ニ記スル滋養乏少ハ、患部ノ運營何如ナルヤ、
 其部ノ固有組織一齊ニ消滅スル者純正滋養乏少ナル
 ヤ、組織ノ脂肪變質シ、隨テ瘦削スル者ナルヤ、

凡ソ人身全軀ハ、細胞體ノ集合ニ成ル者ナレ
 ハ、一部若クハ全部ノ容減縮スルハ、細胞體ノ
 減少或ハ消滅スルニ由ル所ナリ、此ノ如ク減
 少スルハ、所謂粒狀細胞體中、細胞ノ變異ニ由
 テ生ス、其變異ハ、卵白質ヲ含ムノ諸腺ニ於テ
 スル者ニモ、健康時ニ諸部ニ在ル者ニモ、疾病
 ニ由テ生スル者ニモ、發見スル所ナリ、而シテ其
 近因ハ、細胞體中、凝結セル脂肪ヲ生シ、漸次ニ
 胞内ニ充盈シ、遂ニ細胞膜破裂シ、脂肪球ハ、各
 ヲノ引カニテ、所謂脂肪集合球トナリ、溶解シ

テ粘物トナリ、吸收シ去ラル、此ノ如クニ細胞ハ消滅シ去テ痕迹ナキナリ、大部ニ於テ此ノ如キ運營ヲナセハ、則チ其部萎縮シ、兼テ脂肪集積ヲ生スルナリ、例之、麻痺スルノ筋、脂肪增多シ、滋養減少ス、ブリクト病ノ末期ニ、腎藏滋養減少スル是ナリ、又一種滋養乏少ニ由テ、細胞體減少スル者アリ、是レ單性ノ收縮ニ、脂肪鬱積スル者ニ非ス、滋養乏少、器械ノ周圍若クハ内質ニ、脂肪鬱積スルハ、從來唱フル所ノ説ニテ、良能ノ襲替機ニ由テ空隙ヲ充填ス

ルニ出ルトス、故ニ健康體ニ於テモ、自然發育ノ經過中、其部消滅スルナリ、則チ脂肪集積ス、胸腺、副腎ニ於ケルカ如シ、又腦ノ滋養乏少ニハ、凝液滲出シテ、缺乏スル物質ニ襲替スル者アリ、

續症經過及治法

滋養乏少ノ部ハ、機能減衰シ、遂ニ全ク休止ス、分泌器ニ於テハ、分泌休止ス、又分泌液其性ヲ變ス、滋養乏少ノ畢丸ニ於テ分泌スル精液ニハ、小蟲ナク、又胎孕セシムルノ力ナシ、筋ノ滋養乏少ス

レハ、其收縮スルノ彈力ヲ失シ、終ニ痲痺ス、一部
 此ノ如ク機能ヲ失スレハ、隨テ全身抵抗ヲ變シ、
 枯槁機、又交感機ニ由テ、排泄增多シ、或ハ交感部
 ニ於テモ滋養乏少ス、故ニ睪丸滋養乏少スレハ、
 精囊、攝護腺ニ連及シ、脊髓下部ノ滋養乏少ハ、上
 部ニ感シ、神経系ノ中點部ニ連及ス、
 貴要ノ部滋養乏少スレハ、隨テ全身ノ滋養乏少
 シ、終ニ所謂消耗熱ヲ發ス、尚本條ニ之ヲ詳説ス
 へシ、其滋養乏少ノ部、血液製造、汚液排除ノ器ト
 愈親密ナル中ハ、交感スルヲ愈速カナリ、且ツ諸

器ノ機能缺如スルヲ以テ、血液調和ヲ失シ、又其
 患部諸部ニ交感スルヲ愈切ニ、其人體質感覺愈
 鋭敏ナル者ニ於テハ、愈速カニ顯著トナリ、全身
 ニ連及スルナリ、
 滋養乏少ハ、多クハ慢性ニシテ、但シ肝藏急
 性發黃、滋養乏少ハ、此例ニ非ス、抑モ經過ノ長短
 ハ、患部ノ機能ト、患者ノ體質トニ由ル、心藏ノ如
 キ貴要部滋養乏少ハ、經過急速ナリ、生殖諸器ノ
 如キハ、直ニ生命ニ關係ナキカ故ニ、經過常ニ
 緩慢ナリ、

滋養乏少依然タル者少ナリ、回復スル者更ニ少ナリ、

患部生命保存ノ為ニ必須ナラサル者則チ生殖諸器、甲状腺、胸腺等ナレハ、治セサルモ大害ナレ、然レモ貴要部ノ滋養乏少ハ、遲速アルモ必ス死

ニ陥ルナリ、其然ル所以ハ、後件ニ由ル、**一**全身滋

養乏少、衰脱、消耗熱、**二**生命必須ノ部、脊髓、腦髓、心

等ノ麻痺、**三**水腫、衰脱ノ續症ナリ、

滋養乏少治法、効ヲ得ルト少ナリ、原因ヲ探索スルハ、施治ノ要務ナリ、外因今尚存スル者、食餌缺

乏、消化失宜、運動過少、乏血、敗血、脱血等、因トナル

者ハ、或ハ効ヲ得ルトアリ、又滋養乏少ノ直治法

アリ、則チ新鮮食餌ヲ用ヒ、補給機能ヲ催進シ、患

部ヲ强壮ニスル等ナリ、但シ甲法ト乙法トヲ併

セ施スニ非サレハ効ナシ、患部滋養質缺乏スル

者ニハ、滋養物ヲ運輸スルヲ要ス、唯恨ムラクハ、

滋養乏少スルハ、患部ノ性、滋養質ト親和スルノ

機細胞體ノ補給營養スル機能ヲ失スルナリ、其最モ多ク効アリ

ル者ハ、其容量少ナクメ、滋養分ヲ含ムト多キ品

ヲ飲食セシメ、食時ヲ節度ニシ、清潔開達ノ氣内

ニ居ラシムルナリ、

凡ソ内部局所滋養乏少例之肺癆尿管崩等別ニ
本條アリ、今之ヲ論セス、唯全身衰弱シテ自ラ
一病ヲナシ、精密ニ熟考スルモ、何レノ部ノ局
部症タルヲ辨スルヲ能ハサル者ノミヲ説カ
ントス、但シ全身滋養乏少スルハ、必ス各部ノ
顯著ナル變ナキヲ得ス、故ニ此症ニ臨テハ、醫
者常ニ必ス隱伏セル局部症ヲ探索シ、精密ニ
之ヲ考究シ、其發スル所以何如持久スル所以
何如ヲ察スヘシ、

此種ニ屬スル者、勞瘵、大瘵、勞、小瘵是ナリ、

一 全身瘦削 勞瘵

全身瘦削シテ局部原因ノ察スヘキ者ナク、自ラ
一病タル者ナリ、多クハ食欲增多、或ハ貪餐飽ク
トナシ、此症ハ不日ニ退去ス、消化遲徐失宜、便通定則ナク、
或ハ食物ヲ嫌忌シ、而シテ大渴消ス可ラス、或ハ便
秘スルヲ六日、十四日ナリ、患者多クハ感覺敏捷、
沉默鬱憂シテ憤怒シ易ク、脈小、肌温減少、殊ニ末
端ノ部、手掌足部厥冷、全身冷ニシテ温メ難ク、褥ニ
就テ纔カニ温ヲ得レハ、則チ發汗ス、小便少量ニ

ノ赤色、皮膚乾燥、糙澁、鱗屑狀ヲナシ、面色滲淡汚穢、衰弱甚タレクノ、常ニ身ヲ蓐ニ托ス、睡眠安靜ナラスノ、却テ困苦シ、醒後疲倦スルヲ、晝間及ヒ宵間ヨリハ甚タレク或ハ不寐、消耗熱ヲ發ス、

原因、一老年、發育過早、攝生放肆、血液脫失、出血、經行過多、

刺絡過度、下利、白帶下、過房、消耗病、出產頻回、流產

過慮鬱憂、殊ニ兼テ不寐スル者、食餌不良、或ハ不給、零氣汚

穢、濕潤等、二敗血、黴毒、腺毒、又中毒、鎳毒、砒石毒、銅毒、

ノ如シ、

此病暫留數月、數年ニ及ヒ、消耗熱ヲ發シ、頓力ニ

死スルアリ、治愈スル者極テ稀ナリ、尚且ツ間歇

荏苒シ再發シ易ク、寒冷ノ時期ニハ殊ニ然リ、其

死スルハ衰脱シテ、屢眩暈シ、或ハ水腫ヲ發スル

ニ由ル者多シ、

治法、強壯滋養ノ食餌ヲ最一トス、動物性傑列乙

肉羹汁、牡蠣、鹿角膠、卵水、新鮮乳汁、殊ニ羊乳、驢乳

亞爾扁山居、乳汁養法、此地ハ山氣清潔、衝動性アリテ、大ニ乳汁ノ効ヲ助ク、

此等ノ法ニテ、必死ヲ救フ者、或ハ是アリ、然レ氏

消化機衰弱、胃中酸敗液ヲ釀シ易キ者アリ、能ク

注意シテ、乳汁ニハ、セルチユル水、或ハ輕量ノ鍊氣

アル泉水ゲハッレシ等ヲ配用スヘシ、又或ハ苦味酒、麥酒、ボルテル、蒲桃酒、殊ニ甘味品トルカ適應スル者アリ、凡ソ精神身體ヲ勞役スルノ諸件ヲ避ケ、航海ヲ佳トス、又有カノ衝動劑ハ、ガステイン、プハヘルス、レウク、ウィルトバドレ浴法ナリ、

藥劑ハ必シモ効ナシ、唯敗血原因ノ者、消化力衰弱ノ者ニ用フルノミ、肝油、吉那、鍊劑ハ、最有カトス、殊ニ鍊ハ天造鍊泉ヲ内用シ、又浴法トスルヲ良トス、トラウセンスバトレハ、鍊泉中ノ最ナル者ナリ、

二 小兒瘦削 疴勞

第一徵ハ、小兒不寐シテ、其因考フヘキ者ナク、大ニ瘦削シ、先ツ頸部ニ於テ甚タシ、顔貌老人ノ如ク、猿ノ如シ、目陷リ、鼻尖リ、頰出テ、下肢瘦削シ、而メ腹部ハ肥滿膨脹ス、或ハ體軀屈縮シテ、脊椎歷々數フヘキアリ、皮膚乾燥、皺縮汚穢、衰弱甚タシク、貪餐最モ粉末質ヲ嗜ミ、或ハ食スル所ノ物ヲ悉ク吐泄シ、酸敗液ヲ吐キ、大便秘閉、或ハ酸性粘質綠色或ハ白色下利、終ニ消耗熱ヲ發ス、

乳兒、一歳、二歳ノ者、或ハ稍長セル者 三歳ニ發ス、四歳ニ發ス、

原因

一天稟虛弱、消化器衰弱、父母敗血、或ハ勞瘵質、

二保護失宜、温飽過度、難消化ノ食餌、惡性ノ粉末、

粘稠ノ食料、馬鈴薯、糊劑、不佳ノ母乳、刺戟性ノ食

物、食餌不給、

生母、乳母ノ乳汁不給ナレハ、兩便排泄少ナク、啼泣止マズ、飽食スレハ纔

カニ止ム、濕潤狹隘ノ地等、此病ハ貧民ノ兒、又棄兒院

ノ兒ニ多シ、

三敗血、腺毒、佝僂病、徵毒、

四器械性因、全身結節アル者、生活間ハ、之ヲ知ル

上難久、或ハ全ク能ハス、下利頻回、胸膜焮衝性滲

出、慢性腹膜焮衝、尿管、

往時ハ小兒病治療書中ニ、一大部位ヲ占ムルノ

諸病、瘦削病、喘息、搐搦等、方今原生解剖ノ術精密

ナルニ隨テ、大ニ其趣ヲ變セリ、疝勞ニテ死スル

兒ヲ精細ニ検査スルニ、其原因數般ノ別アルヲ

觀ル、然ルニ古來妄リニ腸間膜腺腫起結節ヲ唱

ヘテ、遂ニ全病ヲ腸間膜所患ニ屬スルニ至レリ、

今方ニ其非ヲ知ルヲ得タリ、

經過慢性ニシテ數月ニ瀕ル、治愈スル者モ必ス遅

徐ナリ、其死スルハ、衰脱、消耗熱、肺焮衝、水腫ナリ、

預後ハ、小兒ノ保護攝生ヲ變レ得ヘキト、病勢ノ
輕重、利ハ、惡徵ナリ、消耗熱嘔吐下原因ニ由ルナリ、天稟虛弱、敗

血ハ、大ニ治レ難ク、外因除去レ得ヘキ者ハ易ク、

其要、乳兒及ヒ小兒、尋常養育法ニ異ナル所ナシ、

虛弱ノ兒ヲ保護スル法、ベレンドス氏、詳説アリ、

リ、乳兒ニハ、健康ノ乳母ヲ附スヘシ、殊ニ田舎

人ヲ佳トス、哺乳スル時ノ長短ハ、其兒生下ノ

月日ニ準レテ之ヲ定ム、兒自ラ哺スル者ハ、直

チニ乳房ニ就テ温飲セシム、他人之ニ哺スル

者ハ、二三三月ノ兒ニハ、良性牛乳、山羊乳、又之ヲ

得ル片ハ、驢乳分一糖湯分二ヲ配シ、少許宛數回之

ヲ微温用ス、而ノ漸次ニ乳量ヲ增多ス、一歲以

外ノ兒ニハ、之ヲ單用ス、ホハ、ンバウム氏、多年

乳汁ハ、新鮮ナル者ヲ煮ス、ノ用フレハ、四月以

往ノ兒ニハ、白ベスコイトヲ搗キ碎キ、水ニテ

煮糊劑トナシ用フ、虛弱ノ兒ニハ、時々肉製ノ

糊劑ヲ與ヘ、離乳後週歲以外ノ兒ニハ、肉羹汁、嫩軟

ノ蔬菜、稍長セル兒ニハ、炙肉ヲ與フ、但シ豚肉、

水鳥肉ハ之ヲ禁ス、又白蒸餅、ベスコイト、輕苦

味ノ麥酒ヲ與フ、極テ虛弱ノ兒ニハ、甘味上好

酒少許ヲ與フ、

有害ノ食物ヲ避ケ、惣テ大ニ清潔ナルヲ要ス、洗
法、浴法、植物芳香性ノ麥芽浴ヲ施コス、上好トカ
エル酒ハ、毎用八滴、至十五滴、一日三四、是レ美味
ニメ強壯ノ効アリ、犢牛肉一日二匙至四匙、塩少
許ヲ配ス、カヒアール、蔬菜粥、蔬菜汁、清淨氣、室外
氣、日輝、芳香薰劑、皮膚摩擦法、皆良ナリ、

滋養法適宜ナレハ、則チ直治法トナル、虛弱甚レ
キカ故ニ、滋養諸法ノ外、更ニ強壯品ヲ施用セン
トスルニハ、極テ精意ニメ感覺鋭敏ナルノ消化

器ニ、未熟物ヲ多用シ、刺戟ニ過クルト勿ラシ
要ス、

大黃、鍊劑、消化易キ品、越質阿布斯未兒扶斯、礮鍊華ニ、

苦味越幾斯劑ヲ配用シ、漸ク純鍊、鍊泉浴ニ、下劑

ヲ兼用ス、各種ノ局部症ハ、精細ニ其因ヲ探リテ、

治ヲ處スヘシ、而メ後漸ク強カ品ニ移ルヘシ、但

シ局部症ヲ治スルト、人カノ達スル所ニ非スノ、

始メヨリ強壯法ヲ處スヘキアリ、是レ此例ニ非

ス、敗血腺毒、ニハ各自ノ特効品、肝油、安質母劑、硫

黃劑、沃度加里、沃實涅鍊、汞劑ヲ用フ、

風氣腫 夫又其並新入將生難辨之矣又難心風

風氣腫ハ、身體ノ空隙中、皮下、又諸部ノ空隙中、

氣狀物集積スルヲ云フ、今論スル所ハ總説ノ

局部症ハ、別ニ本條アリ、

風氣腫最モ生シ易キハ腸ナリ、抑モ此部ニハ、

健康時ニ於テモ氣アリ、次テ沔乙膜、皮下組織、

粘液膜ノ細胞體、肺ノ氣泡、子宮、膀胱、網膜等ナ

リ、腦、又脈管中ニモ氣ヲ生スルナリ、

集積スル氣ノ性ハ、其部、其生スル所以ノ原、又其

集積スル時日ノ長短ニ由テ、各々一ナラス、腸内

ニ在ル者ハ、多クハ炭酸、水素、窒素ナリ、殊ニ炭酸ヲ多シトス、大腸ニ在ル者ハ、硫水素瓦斯ヲ多シトス、腸内ノ風氣、胃腸汚物ヨリ生スル者ハ、惡臭アリ、歇私的里、依利昆垓兒家ノ患フル所ノ風氣ハ、少許モ臭氣アルナシ、

風氣鬱積スレハ、其部ヲ擴排ス、皮膚、腸、腹腔ノ如ク膜ニテ被フノ部ハ、膨脹シテ鼓ノ如シ、柔軟ナル細胞體ハ、膨脹シ、之ヲ押セハ鳴動ス、風氣ノ壓迫スルニ由リ、又大ニ牽張擴排スルニ由テ、其部機能ヲ失シ、又其近傍ノ部モ機能ヲ失ス、腸ノ風

氣膨満スルニ由テ、肺ノ膨脹ヲ妨ケ、肺ノ風氣ニ由テハ、心藏大ニ胸腔ノ左側ニ偏倚セララル、又風氣其觸レ接スルノ部ヲ大ニ刺戟シ、諸般ノ症ヲ發ス、而シテ其症ハ、風氣アルノ部位、又患者ノ體質ニ應シテ、各々一ナラス、故ニ腸ノ風氣ハ、疝痛ヲ發シ、肺ノ風氣轉移シテ、胸腔内ニ漏泄スレハ、胸痛ス、又非常ノ大抵抗ヲ發シテ、集積スルノ風氣消散スルナリ、腸内ノ風氣、上下ニ漏泄シ、子宮收縮シテ風氣ヲ漏シ、膀胱收縮シテ風氣ヲ漏スナリ、カ如シ、

原因

風氣集積スルニ、外ヨリ來ルアリ、内ニテ釀成スルアリ、
一甲種ニ屬スル者ハ、創傷胸部創傷、皮膚創傷ヨリ

外氣竄入スル者、又胃腸穿開シテ、風氣腹腔ニ漏泄シ、肺藏破裂シテ、風氣胸腔ニ集積スル者等是

ナリ、胃中ノ風氣、或ハ食物ニ乘シテ嚥下スルニ由ル者アリ、子宮ノ風氣ハ、漏泄スルニ道ナクメ、

生スル者アリ、則チ有形因アリテ、外氣ト宮内ノ氣トノ交通ヲ障害スル者ナリ、
粘液子宮口ニ閉塞スルノ類、温

度大ニ増加スレハ、尋常存在スルノ風氣、大ニ膨

脹シ、疾患ヲ發スルヲアリ、

二凡ソ飲食スル所ノ物、其性固ヨリ無機性舍密

カニ由テ、風氣ヲ發スル者ナレト、既ニ生活有機體ニ入ルニ及ンテハ、其本性ヲ失シテ、生活機能

ニ隨カハサルヲ得ス、故ニ風氣ヲ發スルヲナシ、然レト生カ不給ニノ、過度ノ物質飲液、食料ヲ消化

シ盡シ能ハス、或ハ彈力不給ニノ、無機性舍密力ヲ制スルヲ能サレハ、風氣ヲ釀成スルナリ、

故ニ泡醸性ノ物質、腐敗熱、失苟兒陪苦、腹水ノ末期、慢性瀕死ノ諸病、腫瘍、寒壞疽ノ部、麻醉毒、

蝮蛇毒等ニ由テ、風氣ヲ發ス、凡ソ生活機能ヲ
 一時、或ハ久シク障害スルコトアリテ、其部ニ固
 ヲリ風氣ヲ釀成スヘキ物質存スレハ、皆能ク
 風氣ヲ發スルナリ、今夫レ人アリ、食後卒カニ
 驚駭スヘク、悲憂スヘキノ書ヲ見ルコトアレハ、
 忽チ消化機一變シ、風氣ヲ生シ、煩悶シテ、窒息
 セントス、又神經機能ヲ妨ケ、或ハ神經幹ヲ緊
 紮スレハ、痲痺スルヨリ、風氣ヲ釀成ス、蔓延神
 經ヲ緊紮スレハ、風氣集積シテ、胃膨滿ス、
 人或ハ曰ク實ニ風氣ヲ分泌スルコトアリ、殊ニ神

經機能ニ由ル所ニテ、歇私的里、依利昆垚兒家ニ
 生スル者はナリト、余今此臆説ヲ掲ルノ意ナシ、
 歇私的里、及ヒ依利昆垚兒ノ發作ニ方テ、風氣
 膨滿スルハ、世普ク知ル所ナリ、スタルク氏之
 ヲ神經機能ニ由テ、頓カニ風氣ヲ釀成スルノ
 證トス、又想像交感ニ由テ、頓カニ風氣ヲ生ス
 ル者アリ、歇私的里性婦人、身體某ノ部ヲ壓迫
 スレハ、常ニ忽チ噎氣ヲ發スル者アリ、フラシ
 ク氏此類例ヲ記スルコト詳ラカナリ、此抵抗ハ、
 末端諸部ニ於テ、相襲替シテ發スルコトアルカ

故ニ從來所説ノ風氣分泌ノ非ヲ知ルニ足ル、
經過及終歸

風氣ノ經過ハ、其原因ニ由リ、根原タルノ疾患ニ
由テ、各々定期ナシ、神經性風氣ハ、其原タルノ神
經所患間歇性ナレハ、發作亦間歇スルナリ、急性
病ニ係ルノ風氣ハ、經過急速ナリ、風氣ヲ生スル
ノ素因アリテ、終ニ常僻トナル者ハ、經過緩慢ナ
リ、

風氣雷鳴シテ、漏泄シ去リ、治愈スル者アリ、又風
氣膨滿ニ由テ發スル所ノ煩悶ハ、風氣漏泄スル
ニ非サルモ、能ク除去スルコトアリ、其風氣或ハ消
滅スルアリ、或ハ水液ニ變スルアリ、風氣膨滿ス
ルノ部腸、破裂シテ、腹腔ニ漏泄シ、腸風氣ヨリ鼓
脹トナルアリ、又肺ノ風氣、胸腔ニ漏泄スルアリ、
風氣集積スルニ由テ、其部全ク機能ヲ失シ、麻痺
シテ、終ニ死ニ歸スルアリ、風氣脈管中ニ入り、卒
然トノ死スル者アリ、

預後

風氣ヲ生スルノ原因ニ由ル、唯外因、例之食物、或
ハ創傷ニ由ル者ハ、治シ易久、生力衰弱ニ由ル者

ハ、治シ難シ、又風氣ノ多寡、及ヒ其部位ニ隨テ、之ヲ定ムヘシ、之ヲ排除スルニ容易ナル部ノ風氣
腸、皮ハ、治シ易シ、肺中ニ在ル者ハ、治シ難久、洵乙
膜ノ者ハ、危ク、脈管中ニ在ル者ハ、死ス、

治法

治法ノ最要ハ、原因ヲ除クニ在リ、創所ヨリ風氣
ノ入ルヲ勿ラシメ、泡釀性ノ飲食ヲ禁シ、血液ノ
腐敗性溶解ヲ防ク、歇私的里、依剥昆垓兒ニハ、神
經ヲ刺戟スル諸件ヲ避クヘシ、

直治法ハ、風氣ヲ體外ニ排去スルナリ、皮下氣腫

ハ、輕々亂刺シ、腸風氣ハ、唧筒ニテ之ヲ漏シ、腹部
ヲ摩擦シ、壓迫ス、或ハ穿開法ヲ施コス、胸腔風氣
ニハ之ヲ胸肋ニ施コス、又或ハ二内部ノ風氣ヲ
水液ニ變セシム、故ニ冷瀉法冷水片ヲ外施シ、備効
ヲ奏スルヲアリ、風氣腸内ニ在ル者ニハ、之ヲ吸
収スル性アル物品品、制酸ヲ與ヘ、鬱積スルヲ勿ラ
シム、或ハ食禁ヲ嚴ニシ、局部症ヲ治シ、以テ風氣
ノ新ニ發生スルヲ防ク、

脂肪腫

脂肪腫ハ、身體組織中、殊ニ皮下脂肪膜、蜂巢組織中、脂肪過多ニ鬱積スル者ニテ、則チ脂肪膜ノ滋養過多脂肪胞ナル者ナリ、

食物中ノ脂肪分、又脂肪ナキ物質

漿粉、糖分、蛋白質

ヨリ、新ニ脂肪ヲ釀成スルハ、健康體ニ於テ既

ニ然リ、是ニ由テ血液中ヨリ、多量ノ炭水素ヲ

排除スルナリ、蓋シ脂肪ハ、少許ノ滋養分ヲ具

スル者ナルカ故ニ、滋養缺乏、必須ノ際ニ臨テ

ハ、復夕之ヲ吸收シテ、良能保存ノ妙機ヲ全フ

ス、又身體ニ適宜ノ彈力ヲ賦與シ、以テ外物ノ刺戟ヲ防クニ足ル、脂肪ノ分量ハ、健康時ニ於テモ、諸般ノ景況ニ隨テ變スル者ナリ、冬時肺ヨリ炭酸ヲ排泄スルヲ多ケレハ、夏日ヨリハ減少スルナリ、脂肪過多ニノ、機能ヲ障害スルニ至レハ、始テ之ヲ病性脂肪過多ト云フ、全身脂肪增多シ、平時ハ脂肪ナキ部ニモ之ヲ見ルヲアリ、之ヲ全身脂肪腫ト云フ、故ニ各自内部縦隔膜、腸間膜、心藏、心囊、網膜ニ集積スルアリ、或ハ皮下組織蜂巢體中ニ鬱積スルアリ、或ハ囊膜ニテ

被包スルアリ、或ハ巴連舎麻中ニ集積シテ之ヲ壓迫スルアリ、例之、肝、心、諸筋及ヒ腎ニ於テ見ル所ノ如シ、然レ凡、此類ノ症ニ於テハ、細胞體成形ハ、其部ノ滋養過多ナルノ續症ノミ、故ニ今之ヲ論セス、唯全身脂肪腫ヲ説クヘシ、
症候

脂肪集積スル部ハ、脂肪膜ヲ最トス、又凡ソ柔軟ナル細胞體アリテ、能ク之ヲ容ル部ニハ、脂肪滲蔓シテ、其虚隙ニ充盈スルヲ、猶水腫ノ水液ニ於ケルカ如シ、又沕乙膜下ニ鬱積スルヲアリ、平時

ニ脂肪製造盛ナルノ部ニハ、集積スルヲ最モ肥厚ナリ、

リクテル氏、肥滿セル人ノ數例ヲ示ス、一英人

ト氏、第十歳ノ時、體重既ニ百四十斤、ナウマン

長スルニ及テ、六百六斤ニ至レリ、

氏、ホイグトル氏等是ナリ、

脂肪集積シテ、大ニ諸部ヲ壓迫スレハ、諸般ノ機

能失宜ヲ發ス、而メ其機能ハ、脂肪腫ト相關係ナ

キ者ナレバ、失宜ヲ發スルハ、他ノ器械性壓迫ニ

由ル者ト少差ナシ、例之胃腸ヲ壓迫スルニ由テ、

頑固ノ嘔吐、便秘ヲ發シ、網膜或ハ諸腸ニ於テハ、

箱頓諸症ヲ發シ、横隔膜ニ於テハ、呼吸不利、心動

失常、多血、出血等ヲ發ス多クハ食機增加、貪餐飽

クヲナシ、肝藏膨大トナリ、觸テ之ヲ知ルヘシ、肺

藏機能十全ナラス、喘息、脂肪集積シテ、壓迫スルニ非サルモ、亦此症ヲ發

スルアリ、短息、階ヲ登リ、身體運動スルニ方テ、殊ニ

甚タシ腹部ニ脂肪集積シテ、横膈ヲ壓迫スルヲ

愈甚タシク又尿閉スル者ハ、呼吸不利スルヲ愈

甚タシ、但シ呼吸不利ニメ、血液酸化スルヲ不全

ナレハ、脂肪ヲ生スルヲ愈多シ、血液循環流利セ

ス、分配平均ナラサルニ由テ、心悸動、眩暈、粘液腫、

脈弱小遲、精神衰弱、動作怠惰、疲勞之易久、遲鈍惰弱ニノ眠ヲ嗜ミ、顧念スルヲナク、精液製造、生殖機能減少シ、或ハ廢止シ、隨テ慾情減少ス、

慾情發動ノ時ニハ、獸類瘦削ス、罽丸ヲ截斷スル人、不孕ノ婦人ハ肥滿ス、之ニ反シテ肥滿ノ婦人ハ妊孕セス、又脂肪製造ト、生殖機トノ枯槁スルノ證、少ナカラス、則チ多淫放肆ノ人ハ、肥滿スルヲ少ナク、又決シテ肥滿セス、生殖ノ機廢スルニ及テ、始テ肥滿スル者アリ、冬時蟄伏スルノ獸類、春時ニ及テ蘇生スルハ、瘦削

ス、其慾情發動スルニ及テハ、更ニ瘦削ス、鯨屬ハ慾情發動ノ時期前ニ脂肪多シ、而メ其時限ノ間ハ食餌ヲ取ラサルカ故ニ、漸次ニ瘦削ス、獸類ニテハ、慾情發動期前ニハ、脂肪大ニ攝護腺ヲ被包ス、然レニ後漸ク収縮ス、罽丸ヲ截レハ獸類肥滿ス、故ニ人肉ヲ喰フノ土民ハ、囚者ノ罽丸ヲ截ルナリ、
神經系外物ニ感スルヲ遲鈍ナリ、故ニ肥滿スル人ハ、能ク饑ヲ忍ヒ寒ニ耐ヘルヲ久シ、諸分泌排泄物中、皆脂肪質ヲ混ス、

此ノ如キ人ノ汗ハ、必ス一種豚肉様ノ臭氣アリ、衣巾ヲ蒼色ニ染ム、身軀脂肪狀質ヲ遍敷シ、面部兩手ハ濕潤ス、患者發汗セサルモ、其蒸氣中臭氣アリテ、身傍ノ諸物ヲシテ催嘔臭ヲ帶ハシム、尿通スルニ方テ、尿道灼熱ヲ覺エ、體動後ハ殊ニ甚タシ、小便多クハ渾濁、石鹼水ニ似タリ、而メ上面色アリテ虹彩ノ如シ、沈降物ハ搗碎セル石粉ノ如シ、或ハ表面ニ油質ノ斑點ヲ顯シ、或ハ其始メ乳劑ノ如ク、光ニ照セハ各箇ノ脂斑ヲ見ルアリ、



肥滿ノ人ハ、毛髮ノ發育盛ナリ、脂肪集積ノ部ニハ最モ多シ、
解剖症候
脂肪膜中、内部諸器ノ周圍ニ脂肪鬱積シテ、之ヲ壓迫緊搾シ、又肝藏膨大、滋養過多、變質、心藏肥大、滋養過多、或ハ減少、筋肉ノ脂肪變質ス、或ハ生殖諸器發育全カラス、或ハ體軀過早ニ大ニ發育成長ス、

原因

一素因、體格固ヨリ脂肪過多ナル者アリ、又天稟

殊ニ先天遺傳ノ者アリ、
肥満ノ者三十一人、内遺傳ノ者二十人、血族亦
肥満スル者五人ナリ、

又或ハ貧困苦厄ニノ食餌不給ナレバ、尚能ク肥
満スル者アリ、或ハ美食膏粱、安逸優居スルモ、尚
瘦削ヲ免カレサル者アリ、男子ヨリハ婦人、膽汁
質ヨリハ粘液質ノ人、肥満シ易シ、又衆人肥満シ
易キ土地アリ、南海諸島ノ住民ノ如シ、又荷蘭人
ハ粘液質ナルト、食物ノ異、及ヒ氣候濕潤多霧ナ
ルトニ由テ、肥満シ易シ、幼年ニ於テ既ニ肥満ス

ル者アリ、肥満スル兒ノ體格ハ、固ヨリ大ナルカ
故ニ、過早ニ發育成長スルナリ、然レバ肥満スル
者ハ、必シモ慾情發動ノ諸症、過早ニ發見スルニ
非ス、又肥満兒ハ女兒ヲ多シトス、蜂巢組織弛緩
スレハ、肥満ヲ爲シ易シ、

蜂巢組織ヲ弛緩セシムルニハ、浴法、撫摩法ニ
テ之ヲ促カスヘシ、アリストテレス氏曰ク、老
牛ノ皮膚ヲ吹噓シ、後多量ノ食物ヲ與フレハ、
速カニ肥満スト、英人ハ老獸ヲ肥満セシムル
ニハ、微温湯ニテ全身ヲ洗ヒ、蜂巢體ヲ弛緩セ

格助重 二十九 一切由集

シメ、以テ肌肉及ヒ脂肪ヲ增多ナラシム、東方諸國ニテハ、婦人ノ肥滿スルヲ美麗ナリトスルカ故ニ、婦女ニ弛緩スルノ浴法ヲ施コシ、後柔手ニテ皮膚ヲ撫摩シ、粉粧スルヲ生業ト爲スノ婦アリ、此ノ如クスレハ、婦女肥滿ス可レハナリ、佛蘭西ニテハ、鳥類ヲ飼養スルニ、必ス其皮膚ヲ吹噓スルナリ、

二原因、凡ソ人身ノ動物性機能發成ヲ妨害スル所以ノ者、又窒素少ナク、炭水素多キ食物ハ、脂肪ヲ增多ス、動作少ナク、多眠、攝生安逸、閑居安

靜、房事ヲ廢シ、婦人屢出產スルノ後、寡居スル者ヲ失スル者、濕冷氣内ニ住スル者、屢瀉血シテ血液者ハ、生カ衰弱シテ肥滿トナル、多ク植物ヲ食シ、

脂分、糖分多キ品、炭水素ヲ增多スル品、又炭水素多キ酒類ヲ常用スル等、皆以テ脂肪ヲ增多ス、手或ハ足ヲ截斷スル後、肥滿スル者アリ、ヒュン

セン氏曰ク、一婦人毎産後、必ス肥滿スルアリト、血中ノ色分ト、脂肪トハ、常ニ相拮槔スル者

ニ、甲増セハ乙減ス、暗黒色ノ人ハ肥滿セス、肺、肝、皮膚疾患蒸氣閉塞ニ由テ、炭水素血中ニ增多

スレハ、脂肪トナリテ、蜂窠體ニ分泌ス、故ニ脂

脂肪腫ノ本性ハ、血中炭水素增多スルナリ、是レ
 或ハ食物ニ由リ、又天稟體格脂肪ヲ生スル
 多キニ由ル、而メ此兩因相合併スルハ論ナク、
 一因ニテモ、能ク脂肪腫ヲ發スルナリ、
 獸類ヲ多脂肪トナラシムルニハ、此諸因ヲ併セ
 施コスヘシ、先ツ其獸ヲ狹所ニ置キ、運動シ能
 ハサラシメ、其脚ヲ折リ、其目ヲ盲トシ、時々瀉
 血シ、且ツ口ヲ箝シテ鳴クヲ勿ラシム、多霧ノ
 時、殊ニ秋時ニ於テハ、鸞鳥、告天子ノ類ハ、二十
 四時間ニ、多脂肪ナリ、飛フヲ得サルニ至ル

經過、終歸、及預後、
 脂肪腫ハ、疾病ト云フヨリハ、體質失宜ト云フヲ
 當レリトス、但シ續發ノ局部疾患、或ハ危險症ヲ
 發シ死ニ陥ルヲアリ、肥滿ノ兒ハ、矢折シ易ク、肥
 滿ノ人ハ、長壽ヲ保シ難シ、皮膚ヲ按摩シ、或ハ發
 汗スレハ、其部赤色トナル、極テ肥滿スル兒ハ、生
 齒ノ期ニ方テ、甚シク血液輻進ヲ發シ易シ、白腫
 及ヒ水腫ハ、脂肪腫ト合併シ易シ、肥滿スル人ハ
 卒中或ハ喘息狀諸症ヲ發シ、頓カニ死スルヲア
 リ、又偶發ノ疾患モ、他人ニ比スレハ危險ナリ、

治法

脂肪腫ハ、他ノ體格固有ノ補給機諸患ノ如ク、之ヲ全治スルコト能ハス、唯其勢ヲ挫クノミ、抑モ物質ノ增多スルヲ減殺スル所以ノ諸法ハ、皆補給機ヲ減殺シ、諸運營ヲ衰弱セシメ、隨テ脂肪ヲ增多シ、或ハ水腫ヲ發スルニ至ルカ故ニ、之ヲ處置スルコト極テ難シ、食餌ヲ減節スルハ、最要法ナリ、但シ補給機ヲ減損スルコト甚タシキニ過クルコト勿ルヘシ、窒素多キ品ヲ用フヘシ、多量ノ植物、脂油、甘味物、酒類ハ、之ヲ禁ス、但シ全ク肉類ヲ禁スルハ、却テ互シカラス、凡ソ芳香品、塩藏品、胡椒、酸性品、骨菲ハ、脂肪製造ヲ妨クル者ナリ、此等ノ食餌ヲ與ヘ、兼テ身體動作職業ヲ務メ、睡眠ヲ短少ニスヘシ、

藥品中最モ効アル者ハ、灰塩ナリ、炭酸加里水、每用半錢、至一錢、一日三回、炭酸曹達、亞爾加里泉、カル、スバット、マリオンバット、エムス、食塩水、キッシンゲン、ハムビュルク、クレウスナク等ナリ、下劑、醋、海葱醋ハ、世ノ賞用スル所ナレ、凡、効ナシ、下劑ヲ處

スルニハ、極テ注意アルヘシ、瀉血ハ腦多血ノ兆
アルニ非サレハ、妄リニ施コスヲ勿レ、沃實涅、
丁幾劑、加里、アデルヘイド泉、必シモ効ナシ、

病性成形物 善性腫瘍

以下説ク所ノ滋養機失常ハ、大ニ上ニ説ク所ノ
者トハ異ナリ、滋養過多、脂肪過多ハ、補給機増盛
シテ、平時存在スル物質ノ増多スル者、即チ組織、
筋質、骨質、脂肪増多スルノ類是ナリ、今説ク所ノ
滋養失常ハ、新ニ異常物ヲ成形スル者ニテ、絶テ
平時ニハ存スルヲナキノ物體ヲ造成スルナリ、
但シ其組織ノ實質ヲ論スレハ、固ヨリ健康時ニ
モ存在スル所ニテ、異常ナルニハ非ス、則チ諸般
ノ腫瘍ハ、平時組織ノ製造スル所ナリ、又癌腫細

胞體ナル者モ、其形狀ハ、平時組織ト異ナシ、
此類ノ新成形物ト、單純滋養過多トハ、固ヨリ判
然タル區域アルヲナシ、滋養過多ヨリシテ、癌腫
ヲ醸成スルヲ多ク、又之ニ變スル者アリ、則チ粘
液膜、又腺ニ生スルノ皮膚癌腫、以テ之ヲ證スル
ニ足ル、此症組織増大シ、且ツ硬結シ、腺中、乳房中、
腸ノ粘液膜肥厚、兼テ粘表皮其容ヲ増大シ、而メ
増大セル表皮細胞ハ、擦出セル癌腫液ヲ含畜シ、
終ニ新組織、又新細胞ヲ發成シ、隨テ全腫瘍ハ、癌
腫狀トナルナリ、レドイン、ハ此ノ如ク異常成形物

ヲ生スルハ、滋養機旺盛、且ツ其情態ヲ變スルニ
由ル所ナリ、癌腫等ノ新成形物ノ細胞ヲ生スル
ニハ、必シモ先ツ滲出液等ヲ須要ナリトスルニ
非ス、是レ滋養過多ト、焮衝滲出ト、自ラ別アル所
以ナリ、新成形物ヲ生スルニハ、多血ト滲出ト或
ハ前發スルヲアレハ、是レ必須緊要ナルニ非ス、
唯滋養ノ機變異シテ、細胞體不可測ノ情態ヲ爲
シ、彼此ノ部ノ細胞體、常形ヲ爲サスメ、異常ノ組
織ヲ造成スル者ナリ、此ノ如クニメ、異常ノ組織
ヲ生スルニ由リ、平全ノ組織ハ壓迫セラレ、溶解

シ去リ、以テ異常ノ成形トナル、
 此ノ如ク滋養機ヲ變異スルノ原ハ、固ヨリ我輩
 ノ解スヘキニ非ス、則チ固形部、流動部ノ變ニ由
 ル者ニテ、殊ニ流動部ニ由ルヲ多シトス、之ヲ説
 クニ、最モ簡易ナルハ、固有ノ血病ト云フヲ當レ
 リトス、但シ舎密性等ニ於テハ、未夕之ヲ詳カニ
 證スヘキ者ナシ、其最ナル者ハ、所謂癌腫性敗血
 是ナリ、此説至當ナルヤ否、未夕明證ヲ得サレ、
 諸家施治ノ際、之ヲ可トス、又病性成形ニ、善性惡
 性ノ別アリ、是レ醫家着眼スヘキノ要件ナリ、而

ノ腫瘍ヲ解剖シテ之ヲ檢スルモ、又其全身ニ關
 係スル所以ノ失常モ、差異アルナシ、
 レインハルドト氏曰ク、善性腫瘍ハ、多クハ偶
 然發生スル者ニテ、身體ノ一組織、或ハ一局部
 ニ發シ、其滋蔓スルニ方テモ、從來ノ位地タル
 モ、周圍ノ脂肪組織、又膀胱縁側ハ、硬結スルナ
 シ、又一部ノ組織増大スルモ、近傍ノ筋ハ、妨
 ケナシ、又彼此ノ組織中、善性腫瘍ヲ生スレハ、
 其部ノ實質密接シ、滋養過多トナル、然レモ共
 ニ其性ヲ變スルニ非ス、必ス分界アルナリ、

腫瘍甚クシク増大スルニ及テハ、其組織破裂
 シ、焮衝ヲ發ス、次テ周圍ノ組織ヲ變シ、寒壞疽
 トナリ、消滅ス、焮衝ノ滲出液ハ、組織中ニ鬱積
 シ、贅肉狀ノ物ヲ生ス、然レモ深所ニ在テ焮衝
 セサルノ部ハ、必ス腫瘍トハ分界アリテ、相關
 カラス、且ツ善性腫瘍ハ、總テ増息スルヲ遲徐
 ニノ、疼痛ナシ、又其毒ヲ撲滅シ盡スキハ、復ヒ
 其部ニ發スルヲナク、必ス他部ニ發ス、然レモ
 唯從來ノ原地タル同組織ニ於テスルノミニ
 テ、決シテ他系ニ轉スルヲナシ、癌腫ノ如ク妄
 リニ何ノ部ニモ及フ者ニ非ス、

悪性腫瘍腫癌ハ、善性腫瘍ノ如クニ、其周圍無患

ニメ分界アル者ニ非ス、近傍ノ部、多少必ス相
 感シ、或ハ然ラサルモ、多血トナル、其滋蔓スル
 ニ及テハ、近傍ヲ浸淫シ、其組織ヲ消滅シ、相共
 ニ變性ス、殊ニ列印巴管ニ沿テ蔓延シ、腺及ヒ
 尿管癌毒ヲ充盈ス、又深ク其内部ニ波及スル
 者アリ、故ニ局部毒ヲ全然撲滅スルヲ能ハス、
 善性腫瘍ノ属ハ、脂肪腫、細尿管膨脹、纖維腫、組織
 腫、肉腫等ナリ、悪性腫瘍ハ、癌腫ナリ、今別ニ本條

ヲ掲ケテ、次ニ之ヲ詳説スヘシ、

惡性腫瘍 癌腫

解剖症候

今癌腫ノ解剖症候ヲ略説スルヲ以テ足レリト
ス、其詳説ノ如キハ、原病解剖科、又記事家ノ司ト
ル所ナリ、癌腫各種ノ區別、形狀、部位等ヲ總説ス
ルヲ極テ難シ、其初起ハ小塊ナリ、斑狀ノ錯雜ナ
リ、局部ノ多血或ハ滋養過多ナリ、後大小一ナラ
ス、圓ニメ、剥皮ス可ラサル腫瘍ナリ、而メ線ヲ爲
メ、近傍組織ニ滋蔓シ、或ハ其形襞裂ノ如ク、斑駁
ノ如シ、其質硬ハ軟骨ノ如ク、軟ハ腦髓ノ如シ、其

凡
三十七
刀
書

色、白、灰白、帶赤、鮮紅、或ハ暗黒ナリ、多クハ同一時ニ於テ諸部ニ發ス、

凡ソ癌腫體ハ、纖維ト細胞トノ集合ニ成ル者ナリ、其發育スルニ、全不全アリテ、組織ニ疎密アル纖維狀底面ニメ、無數ノ虛隙ヲ具ス、此虛隙中癌腫液ヲ充ツ、其液ハ濃稠乳濁、其質善性膿ノ如ク粘凝ス、此液ハ癌液ト癌細胞トニ成ル、其細胞ノ形狀ハ圓、階圓、三角、四角、或ハ長クメ線ノ如シ、癌腫體ト癌腫液トノ各般ノ比例ニ由テ、癌腫ノ形狀ト、性質トノ別ヲ爲スナリ、癌腫體愈多ク、癌腫ノ膠質多ケレハ、其質愈硬クメ、纖維多シ、乳様液ヲ充ルノ虛隙、愈多ケレハ、愈軟ニメ髓ノ如シ、但シ此虛隙中、乳様液ニ非スメ、球狀體或ハ細胞ヲ盈レハ、膠質癌腫トナリ、組織ヨリ成ルノ癌腫體中、多量ノ脈管アルカ、或ハ多量ノ血液ヲ含ム片ハ、多血性癌腫トナル、又癌腫細胞中、黑色ノ血液ヲ盈ル者ハ、黑色癌腫トナル、

癌腫、或ハ全然纖維質ナルアリ、然レ極テ柔軟ニメ、微細ナルヲ以テ、纖維ヲ見ルヲ難シ、組織ノ此ノ如ク發生少ナキ者、又全ク之ヲ缺ク

者ハ、同所ニ再發スルノ癌腫、及ヒ所謂皮膚癌腫ニ於テ然リ、夫レ皮膚癌ハ、常ニ細胞體ニ成リ、而メ新生線狀纖維細胞ノ形狀ヲ示スノミ、又癌腫體ハ、一分ハ新成物、一分ハ器體固有ノ組織ナリ、骨癌ハ、殊ニ骨質ヨリ成ルカ如シ、乳房及ヒ胃ノ癌腫ハ、其體彈力組織アリ、是レ腺細管、又粘液膜組織ノ遺物ナリ、又偶然軟骨或ハ横ニ亘ルノ筋纖維ヲ生スルヲアリ、レ、ベルトニスケ^ル氏曰ク、人或ハ癌腫細胞ヲ以テ、丸癌腫ニ之アリ、人或ハ癌腫細胞ヲ以テ、腫ノ確徴ナリトスルアリ、ハベルト^ノ氏等、又或ハ之ヲ非トスルアリ、ルワシ^セ氏、ホー^ル氏、ベン^子ト^氏、レベルト^ノ氏ハ、癌細胞ノ測ルヘキ周圍細胞縁ノ形狀數様ナル核、及ヒ核體ノ大サヲ以テ、別ノ徴ナリトスレ^ル、是レ平時ノ表皮細胞體、例之初生兒ノ腎尿管ニ於テモ見ル所ナリ、シウ^氏、一大細胞内ニ、新細胞ヲ發生スル者ヲ、癌細胞ノ固有ナリトスル者アレ^ル、ヒル^シウ^氏曰ク、全然健康ノ軟骨ニモ之アリト、癌腫ト他ノ成形物、平時ノ物、又病時ノ物、腫善^性ト顯微鏡ニテ檢査スルニ、差異ナリ、又其微細ナル部

ハ、同所ニ再發スルノ癌腫、及ヒ所謂皮膚癌腫ニ於テ然リ、夫レ皮膚癌ハ、常ニ細胞體ニ成リ、而メ新生線狀纖維細胞ノ形狀ヲ示スノミ、又癌腫體ハ、一分ハ新成物、一分ハ器體固有ノ組織ナリ、骨癌ハ、殊ニ骨質ヨリ成ルカ如シ、乳房及ヒ胃ノ癌腫ハ、其體彈力組織アリ、是レ腺細管、又粘液膜組織ノ遺物ナリ、又偶然軟骨或ハ横ニ亘ルノ筋纖維ヲ生スルヲアリ、レ、ベルトニスケ^ル氏曰ク、人或ハ癌腫細胞ヲ以テ、丸癌腫ニ之アリ、人或ハ癌腫細胞ヲ以テ、腫ノ確徴ナリトスルアリ、ハベルト^ノ氏等、又或ハ之ヲ非トスルアリ、ルワシ^セ氏、ホー^ル氏、ベン^子ト^氏、レベルト^ノ氏ハ、癌細胞ノ測ルヘキ周圍細胞縁ノ形狀數様ナル核、及ヒ核體ノ大サヲ以テ、別ノ徴ナリトスレ^ル、是レ平時ノ表皮細胞體、例之初生兒ノ腎尿管ニ於テモ見ル所ナリ、シウ^氏、一大細胞内ニ、新細胞ヲ發生スル者ヲ、癌細胞ノ固有ナリトスル者アレ^ル、ヒル^シウ^氏曰ク、全然健康ノ軟骨ニモ之アリト、癌腫ト他ノ成形物、平時ノ物、又病時ノ物、腫善^性ト顯微鏡ニテ檢査スルニ、差異ナリ、又其微細ナル部

モ他物ト異ナルヲナシト雖、癌腫固有ノ性アルヲハ、之ヲ難ス可ラス、是レ内科外科ノ日常歴驗スル所ナリ、又所謂精密ナル同形ナリト稱スル者、亦以テ之ヲ證スルニ足ラス、夫レ顯微鏡ニテ視ル所ハ、唯其原質ヲ知ルヘキノミニテ細胞固有ノ性ハ知ルヲ得サレハナリ、癌腫ニハ、動脈、靜脈、毛樣管アリ、殊ニ毛樣管ヲ多シトス、但シ其基體ト接續スルノ法ハ未タ之ヲ詳カニセス、脈管ハ癌腫體ニ生ス、而メ癌腫體ノ發育微ナル者ハ、脈管愈多シ、中間ノ脈

絡膜ハ見ルヲナシ、列印巴管、神經ハ有ルヲナシ、此脈管破裂スレハ、凝血、纖維質、結晶體ヲ生ス、之ヲ舍密法ニテ檢スルニ、其成分ハ健全機性體ニ於ケル者ト異ナル所ナシ、殊ニ卵白膠液、腫瘍中存スル所ノ組織ノ量ト相比準ス、諸種ノ脂類、カセイ子、塩類ナリ、

癌腫發生及續成

或ハ曰ク、ホーゲル氏、ヒルシヨウ氏、レレルト氏、等癌腫ノ發生スルニハ、必ス先ツ滲出液ト、ブラスタームトアリテ、之ヨリ物質一變シ、癌腫成分體、細ヲ製造スルナ

リト、又或ハ此説ヲ排斥シ、癌腫ノ發生ハ、上ニ記
 スルカ如ク、一局部ノ原質滋養ヲ變スレハ、直チ
 ニ之ヲ生スル者ニテ、猶肝細胞ノ癌細胞ニ變ス
 ルカ如シト、今此ニ説ノ共ニ取ルヘキヲ説クヘ
 シ、乙説ヲ證スルニハ、黑色癌腫ヲ以テス、是レ集
 合少ナキモ、黑色ノ小點ヲ發スルナリ、又所謂表
 皮癌、斑狀癌是ナリ、但シ其解剖鑿別ハ、未タ之ヲ
 詳カニセス、癌腫ノ成育スルニハ、一ニハ周圍又
 内部ニフラステ、ム新ニ滲出スルニ由リ、一二
 ハ細胞體ノ更ニ發生スルニ由ル、而メ其續成ス
 ル所以ハ、

一 焮衝及其續症

焮衝原發ナル者アリ、又外來刺戟ノ續症ナルア
 リ、殊ニ滲出液、及ヒ凝血ニ由テ、破潰セル柔軟ナ
 ル癌腫ニ於テ、最モ明著ナリ、焮衝ハ、分解消散ス
 ルアリ、又滲出液ヲ生シ、之ニ由テ新組織、或ハ更
 ニ癌腫質ヲ生シ、又膿腫ニ陷ルアリ、則チ之ヨリ
 所謂癌腫瘍ヲ生シ、周縁硬結シ、海綿腫等ヲ生シ
 癌腫體ノ一部潰滅シ、隨テ新癌腫體ヲ生シ、周縁
 潰爛シ、漸ク滋蔓シテ、深所ニ及フアリ、

二 癌腫治愈

此變化ヲ經驗スルハ、近世ノ之、癌腫細胞ハ、脂肪
 集積シテ、恰モ膿體ノ如ク、球狀細胞、又脂肪球ニ
 變シ、若シ癌細胞ノ一局部ニ於テスレハ、網狀組
 織トナリ、或ハ乾固シ、収縮シ、硬結體トナル、癌腫
體中
 硬結ヲ生ス、此兩症ハ、良能妙機ニ出ルノ治愈ニ、日
 常見ル所ノ癌腫治愈ノ定法ナリ、近世多ク稱ス
 ル所ノ癌腫治愈、則チ是ナリ、

癌腫細胞ノ脂肪ヨリ生スル脂肪球ハ、終ニ分
 解シテ粘稠溶液トナリ、消散スルノ後、纔カニ

纖維質ヲ遺シ、癌腫斑痕トナル、是レ周圍ノ部
 ヲリ、陷凹セル斑痕ナリ、乳癌ハ、其腺陷凹シテ
 臍狀ヲナシ、又肺、肝ノ細管枝末癌、亦以テ之ヲ
 證スヘシ、ボカダレク氏肝藏癌腫ノ治愈ヲ創
 見セル人ナリ、曰ク、癌腫質ノ周圍ニハ、滲出性
 焮衝ヲ發シ、而メ其脈管消滅スルニ至ル、是レ
 多血トナル所以ナリ、此ノ如キノ癌腫治愈ハ、
 十全ノ治愈ニ非ス、體中尚癌腫性敗血存スル
 ノ間ハ、或ハ他部ニ於テ新癌ヲ生シ、或ハ變シ
 テ他狀ヲナシ、或ハ膿腫トナルアリ、癌腫真ニ

全治スルハ、極テ稀ナル所ナリ、

癌腫敗血、及傳搬、

癌腫性敗血ナル者アルハ、醫家歴驗シテ疑ハサ
ル所ナリ、但シ其本性如何ナルヤハ、許多ノ敗血
諸病ニ於ケルカ如ク、古來未タ詳カニ知ル所ナ
シ、舎密法ニテ血液ヲ檢スルニ、唯纖維質增多シ、
血體減少スルノミ、故ニ確徵トナスヘキ者ナシ、
患者血色土ノ如ク、頸靜脈音アルハ、皆血液減少
ヲ徵スルニ足ル、ヘルレル氏等ハ、血中ニ癌細胞
アルヲ見ルト云フト雖、疑フヘシ、恐クハ無色ノ

血體ヲ云フ者ナルヘシ、癌腫性敗血ハ、原發ナル
アリ、或ハ癌腫ノ敗血ヲ傳染スルニ由テ始テ生
スル者アリ、乙因ハ癌腫ノ傳搬スル所以、又全身
病トナル所以ノ最原ナリト見ユ、

癌腫ノ傳搬スルハ、列印巴管、或ハ血脈管、癌細胞
ヲ血中ニ混シテ、運輸スルニ由ルトスルノ説ア
レ、血中真ニ癌細胞ヲ見ルヲ得サルノ前ハ、
未タ之ヲ信シ難シ、然レ、癌體ハ、脈管中ニ在テ、
外ヨリ輸入スル者ナルモ、又血液變敗スルニ由
テ發生スル者ナルモ、存スルヲアルハ、疑ナキ所

ナリ、ランゲンベク氏、癌腫毒ヲ生活獸ノ静脈ニ
 注入スルニ、肺藏癌ヲ生セリ、以テ血液ノ之ヲ輸
 送シ、細管中ニ凝滯シ、隨テ新癌腫ヲ生スルヲ證
 スヘシ、又門脈系ニ癌毒ヲレハ、必ス肝藏癌ヲ生
 ス、以テ門脈血ノ癌毒ヲ運輸スルヲ知ルヘシ、然
 レモ未タ明證ヲ得ス、又一部癌腫變性アレハ、之
 ト交通スル列印巴腺亦之ヲ感染ス、又交感ニ由
 テ癌毒ヲ傳搬スルヲアリ、腸ノ網膜相接スルノ
 部ニ發スル癌腫之ヲ證スヘシ、ハニ由マシヤカ
 經過、終歸、及預後、

症候ハ、局部條ニ於テ、詳説スヘシ、其經過極テ一
 ナラス、急速或ハ遅徐ナリ、軟性髓樣癌腫ハ、硬性
 ノ者ヨリハ速カナリ、又患部、體質、攝生、治法、關係
 ナキニ非ス、終歸ハ多クハ死ス、其一分治愈スル
 者モ癌毒ヲ排除スルヲアル者モ、免カル可キニ
 非ス、全治スル者極テ稀ナリ、其死スルハ、貴要部
 機能ヲ失スルニ由リ、溶崩出血、又水腫ニ由ル、故
 ニ預後ハ、皆無策ナリトス、

原因

原因知ル可ラス、尋常唱フル所確實ナラス、何ノ

年齡ニモ限ルヲナシ、胎兒モ之ヲ患フルヲアリ、然レモ四十歳ヨリ、六十歳ニ至ルノ間ヲ最モ多シトス、都テ婦人ハ、男子ニ比スレハ、之ヲ患フル者多シ、乳房癌、子宮癌ノ多キヲ以テ察スヘシ、患者七分ノ一ハ、遺傳ニ由ル者トス、トレベル氏、癌腫患者ノ數ハ、土地開闢シ、人民增多スルニ隨テ、多シト見ユ、而メ顯ニ傳染スル者ナシ、

ロキクンスケイ氏、エシゲル氏等謂ク、癌腫ト硬結トハ相防拒スル者ナリ、殊ニ新發癌腫ハ能ク硬結腫ヲ防拒スト、然ルニレベルト氏曰ク、此ニ症何ノ時期ニ論ナク、併發スルヲアリ、

癌腫ニ罹ル婦人、子宮硬結ヲ患フル者アリ、之ヲ證スニ足ルト、凡ソ家畜獸例之犬ハ、癌腫ヲ患フルアリ、其解剖症候顯微鏡所驗、總テ人身發スル者ト少異アルヲナシ、

治法

癌腫ハ治ス可ラサル者アリ、癌性敗血ヲ清潔ニスルノ法ナシ、故ニ治癌妙効品、最モ失鳩答、答實ヨリ製スル、コニイ、子ヲ佳トス、莖若、金盞花、明礬、塩酸金、塩酸鉛、塩酸重土、銕、砒石、沃實、涅、灰、塩類等皆効ナシ、唯姑息

法ニテ、體格ヲ強壯ニスルニ過キス、外部癰腫ハ切斷シテ其毒ヲ消滅スル法アリ、是レ瘍科術ニ屬ス、

癰腫ヲ説クハ、近世衆人ノ勉ムル所ニテ余カ本國ニ於テモ、諸般ノ説ヲ公世スル者少ナカラス、以テ此病ノ解剖症ヲ詳カニシ、預後及ヒ治法ニ裨益アリ、故ニ今彼此ノ説ヲ掲ケテ、余カ説ノ足ラサル所ヲ補ハントス、誰カ之ヲ贅言ト云シ、又余嘗テ施治ノ際、實驗スル所ノ者、及ヒ同寮スクラント氏ノ説ヲ布告セントス、

スクラント氏曰ク軟性髓樣癰腫ハ、此病ノ正症ニメ、病機方ニ極度ニ至ルヲ證スルノ標準ト云フヘシ、此説ヲ唱フル所以ハ、左件ニ在リ、實ニ軟性癰腫ハ、病勢猖獗ヲ極ムル者ニテ、單純ナル組織ヲ成形スルヲ迅速ナリ、而シテ其組織ハ單純ナリト雖、之ヲ成形スルニハ、必ス須要ノ時限ヲ費スヘキニ、極テ迅速ニ新成形ヲ發生スルナリ、抑モ此單純組織ハ下ニ於テ詳説スヘキカ如ク、諸種ノ癰腫ニ於テ、皆之ヲ發生スト雖、軟性髓樣癰ニ於テハ、最モ顯著ナリ、髓樣ノ稱ハ至當ナラサ

レ氏、軟ニノ腦ニ似タルカ故ナリ、腫瘍ノ全部ハ、
核ニ成ル、細胞極テ少ナシ、血脈及ヒ纖維ハ、少許
ニメ、且ツ極テ微細ナリ、或ハ大ナル纖維塊アリ
テ、腫瘍ヲ半斷スルカ如ク、中間ニ柔軟ナル糊狀
質アリテ、癌腫ノ髓質ト相同シキ者アリ、其質硬
軟一ナラス、又其發生スル部位ノ組織ヲ混シテ、
肝癌ハ固有ノ細胞アルカ如ク、隨テ數様ノ別ヲ
爲スヲアルハ、詳説ヲ要セサル所ナリ、
硬性集合癌腫ト稱スル者ハ前種ト相反スル者
ニメ、自ラ鑒別シ易シ、纖維集合ノ堅硬凝結シ中

間ニ二三ノ球ト、無數ノ核トアリテ、必竟ハ髓樣
癌腫ノ質ヲ變スル者ノミ、纖維線狀腫瘍ト髓樣
癌腫トノ合併症ニメ、甲種ノ纖維質ト、乙種ノ核
ト集合シテ生スル者ナレハ、癌腫ノ正症ニハ非
ス、但シ第一種^{軟癌}ヲ切斷スルノ後第二種^{硬癌}ヲ生
スル者多シ、全身諸症ノ增多スルヲ以テ、髓樣癌
ハ癌腫發成ノ極度ナルヲ知ルヘシ、唯同一病機
ニ出テ、強弱ノ度相異ナルノミ、此二症ノ中間ニ、
硬軟數種ノ別アリ、癌腫成分ト、有色細胞ト、相合
スレハ、有色癌、即惡性癌トナル、脈管多クメ、出血

シ、或ハ凝血ヲ漏セハ、血性海綿腫トナル、又癌腫成分ト、他ノ組織ト混シ、之ニ由テ、諸種ノ癌腫ヲ生ス、其最ナル者ハ、表皮癌ナリ、是レ表皮細胞ヲ生スルヲ多キニ由ル所ナリ、又コルロイド大ニ脂肪ニ似タル一物質ナリ、ヲ混スル者ヲ、コルロイド癌ト稱ス、而メ其組織自ラ一種ノ形狀ヲ具スルヲ以テ、又之ヲ花蒂癌ト名ク、

以上既ニ癌腫成分ヲ略説セリ、故ニ今唯其真徴トナスヘキ者ヲ説カントス、世人其多ク見ル所ヲ以テ、細胞體ト核トヲ、癌腫

ノ真成分トナシ、纖維及ヒ他ノ組織ハ、真成分ニハ非ストス、就中數年前マデハ、大ニ細胞ヲ主張シ、癌腫ニハ固有必要ナリトセリ、然レ凡同一時ニ見ル所ノ形狀一ナラス、又癌細胞ハ、他ノ組織ノ如ク、發生スルノ度ニ隨テ、形狀數様ノ變ヲナス者ナルカ故ニ、一定ノ形狀ヲ説クヲ能ハス、又平時見サルノ差異アルヲ以テ、真徴ナリトセハ、一種固有ノ形狀ヲ定ムルヲ能ハサルヘシ、余カ驗スル所、癌腫少ナカラス、其細胞ハ、表皮細胞ト大ニ同シクメ、固有ト稱スヘキ者ナシ、故ニスク

ラント氏ノ説ノ如ク、必須ノ成分トナスヲ信
 セス、スクラント氏曰ク、其細胞ハ多クハ一箇或
 ハ三箇ノ大核ヲ具ス、或ハ更ニ多キアリ、若シ一核ナレハ、
 必ス側縁ニ在リ、其細胞ノ形狀ハ、全圓、階圓、線狀、
 或ハ稜角アリテ、柔軟ニメ、縁厚ク、或ハ紋理ヲ具
 シ、透明ナル物也、或ハ脂肪ヲ盈ツ、
 細胞ヨリハ、更ニ確徴トナスヘキ者ハ、核ナリ此
 物或ハ細胞内ニ在リ、或ハ細胞外ニ在テ、癌腫ノ
 大分ハ之ニ由テ成ル者アリ、此核ハ其大小ニ由
 リ、多クハ階圓ナルニ由リ、又必ス二三ノ核小體
 ヲ具スルニ由テ、自ラ別アリ、然ルニスクラント

氏、髓様癌ヲ検査スルト二回ナレト、之ヲ見スト
 云フ、又曰ク小球内ニハ脂肪アリ、或ハ核内ニ脂
 肪凝結スルアリ、核ハ發育シテ細胞トナリテ纖
 維トナル者ニ非スト、ベシ子ツト氏ハ、柔軟ナル核ハ、細胞ノ破裂ニ成ルト
 ス、余謂ク是レ柔軟ナル核ノ多キ癌ニ於テ曰フ
 ニハ非サルヘシト、其發成ノ速カナルハ、成分ノ
 成形、核ノ單純ナル形狀ヲ踰ユル一能ハサルカ
 如ク、多クノ且ツ速カナリ、前説ニ依ルニ、スクラ
 ント氏、癌腫ハ、必ス次ノ三件アリトセハ、余カ説

保斯達篤卷六

癌腫

四九

切白樓

ト全ク同シトス、
 一 一腫瘍内ニ、細胞數様ノ形狀アリトスルハ、未
 夕確徴ナキカ故ニ、疑ヲ免カレス、
 二 細胞ノ形狀ニ論ナク、上ニ記スルノ核、二箇或
 ハ三箇ヲ具スルハ、鑿別ノ徴ナリ、但シ此症ハ、真
 癌ニ於テモ、常ニ必ス之アルニ非ス、故ニ妄リニ
 標準トナシ難シ、

三 最要ナル徴ハ、游離セル核ノ存スルナリ、是レ
 癌腫ニハ、必見ノ者ニテ、他ノ腫瘍ニモ或ハ之ヲ
 生スルコトアルモ、必然ニ非サルナリ、以テ癌腫夕

ルヲ知ルヘ、キナリ、

癌腫品類中ニ算入スル諸種ノ腫瘍ニ於テスル
 大區別ハ、一ニハ各種ノ腫瘍、其發成時間ニ爲ス
 所固有ノ位置ニ由リ、又一ニハ之ヲ検査スル片
 癌腫發成ノ時期ニ由ル、何トナレハ、癌ニハ始テ
 發スル時期、成育スル時期、持續スル時期、終末時
 期アレハナリ、此ノ如ク發成始終アルノ原ハ、實
 ニ必然不易ノ運歩ニメ、凡ソ生活アル萬物皆然
 ル所ニテ、癌ニ於テモ亦之アリ、是ニ於テ形狀ノ
 變異ヲ爲ス、是レ治愈スルコトアル所以ナリ、或ハ

治愈ヲ營ムニハ非サルモ、必ス其暴惡ノ性ヲ減殺スルニ足ル者アリ、此ノ如キ變異ハ、脂肪變性ナリ、コルロイド製造ナリ、

脂肪變性ハ、詳説ヲ要セサル所ナリ、凡ソ脂肪組織トナルニハ、其始メ顯微鏡ニテ視ルヘキ小滴彼此ニ散亂ス、此小滴漸ク集合シテ、大滴トナリ、終ニ其極度ニ至レハ、所謂脂肪組織トナル、今記スル所ハ、殊ニ足ニ於ケル組織ノ發成ヲ説クニ足ル、始メ細胞ノ内質ヲ生シ、終ニ其外側ヲ成スナリ、スクラント氏曰ク、此ノ如キ脂肪製造ハ、諸

種ノ癌腫ニ於テ皆然リ、其盛ナルニ及テハ、目能ク之ヲ視ルヘシ、尋常之ヲ癌腫ノ變化ト云フ、脂肪ノ白質、腫瘍ヲ纏フ、恰モ脈管ノ如シ、而メ黃色ノ網狀ヲ爲ス、故ニミユルレル氏之ヲ網狀癌ト名ク、是ニ由テ之ヲ觀レハ、纖維癌、髓樣癌ノ別ヲナサスメ、妄リニ腫瘍各般ナル形狀ノミヲ以テ區別スルノ益ナキヲ知ルヘシ、

コルロイド製造、亦癌腫變化ノ一要件ナリ、是レコルロイド質細胞内ニモ、又核内ニモ生スル者ニテ、殊ニ細胞内ニ生スルヲ多シトス、抑モコル

ロイド生スル所以、又其存スル所以、テ詳説スル
 ハ、此書ノ本旨ニ非ス、スクラント氏詳論アリ、就
 テ見ルヘシ、癌腫ノコルロイド製造ハ、自然ニ發
 スルノ回復機能ニ由ルニ非ス、スクラント氏又
 曰ク、コルロイド小球、及ヒコルロイドニ似タル
 物質、癌腫中ニ存スルヲ見ルト、然レモコルロイ
 ド過多トナレハ、全質必ス一變ス、此時纖維質ハ、
 硬キ網狀ヲナシ、其無數大小ノ虚隙ニハ、コルロ
 イド充填ス、縁側漸クニ消滅スレハ、小隙相集テ
 大隙トナリ、此ノ如クニメ腫瘍、所謂花蒂癌トナ

ル、是レ但シ其粗糲ナル形狀ヲ以テ名クルノミ
 ニテ、癌ノ一種類タルニ非ス、之ヲ要スルニ、上ニ
 記スルカ如ク、コルロイド製造ハ、癌ノ暴性ヲ減
 殺スルニ足ル者ナリ、但シ直チニ之ヲ善性ナリ
 トシ、危険ナシト云フニハ非ス、何トナレハ、若シ
 然ル片ハ、此症ト真癌トノ合併症ハ、大危険ナカ
 ルヘケレハナリ、近時チラニユス氏一驗アリ、一男
 子、睾丸ニ於テ、大ナルコルロイド癌ヲ發ス、全質
 單純花蒂癌ノミニテ、有核ノ細胞ト、柔軟ナル核
 ヲ充ツ、然ルニ少時ニメ、肝藏及ヒ腹膜ニ、髓様癌

ヲ生シ、頓カニ死ス、

花蒂癌モ、真癌モ、最後ノ治法ハ、切斷法ナリ、但シ
是レ一大難事ナリ、一ニハ施術前ニ於テ、先ツ癌
ノ性ヲ預メ知ルヲ能ハス、一ニハ施術極メテ精
密ナラサル可ラス、之ヲ要スルニ其毒ヲ撲滅ス
ルヲ能ハス、何トナレハ、硬癌モ、軟癌モ忽チ再發
シテ、死ヲ速クヲアレハナリ、故ニ治ヲ乞ヒ、生ヲ
求ムルノ患者ニ向テ、其必死ヲ告クルニ非サレ
ハ、妄リニ器械ヲ弄スルヲ勿レ、又或ハ無望瀕死
ノ者ニ於テ、望外ニ其生命ヲ保存スルヲ得ル

トアリ、一男子臂ニ一腫瘍ヲ發ス、之ヲ顯微鏡ニ
照スニ、明ラカニ真癌タルヲ知ル、上ニ記スルノ
羣丸腫ノ類ニ非ス、施術後二年、今尚健全ナリ、チ
ラニユス氏、此治驗ヲ詳記シ、更ニ數般ノ證例ヲ示
シ、且ツ揚言シテ曰ク、癌腫ヲ截除シ、切斷スルノ
最要ハ、之ヲ遲怠スレハ、生命危險ニ陷ルヘキ者
ニ施スヘキノミ、其部位、廣狹ヲ以テ、術ノ功否ヲ
預メ議ス可キニ非スト、

侃斯達篤卷之六終

侃斯達篤內科書

坪井信良先生譯
初編刻成二編三編嗣刻

初編八卷血液病二編三卷神經病三編三十三卷定類病合之四十四卷
 以上第一輯トス四編六十餘卷分テ第二輯第三輯トス通計一百餘卷以
 テ全局ヲ終フ今毎月二卷ヲ刻ス四年ニシテ全編成功ヲ期スヘシ
 夫レ歐羅巴各國諸名哲相競テ各自ノ學術ヲ研究シ皆其秘蘊ヲ尋ス而
 各國自ラ所長アリ醫方解剖ノ學ハ古來日耳曼ヲ以テ超拔無比トス侃
 斯達篤氏ハ日耳曼都府大醫學校ノ一巨擘ナリ其著書博ク古今諸家ノ
 說ヲ搜索シ之ヲ斷スルニ自己獨得ノ卓識ヲ以テス論辨詳悉義理通快
 且ツ近今發明經驗スル所ノ良方奇藥載セサル者ナレ實ニ刀圭家ノ一
 大寶筏ト云ヘシ學者舊套ヲ脱シテ豁眼ヲ開キ之ヲ熟讀翫味セハ病者
 ヲ診スルノ際意解默識スル所アリテ正案一定シテ迷想立ニ消シ處法
 則チ成リ藥効意ノ如ク運匙輕易自ラ神助アルヲ怪シムニ至ルベシ四
 方ノ君子全編成功ノ日ニ於テ西洋醫方ノ真面目ヲ領解セハ則チ濟生
 ノ術ニ於テ裨益スル
 所豈ニ僅少ナランヤ



明百原病論

坪井信良先生譯
全四卷近刻

和蘭第二等醫官海軍隊衛生督ホシベフアンノールデルホルト氏嚮ニ
招ニ應シテ長崎ニ在留シ生徒ヲ教誨スル日講述スル所ニテ則チ雲埜
里弗氏内科書編首ニ掲クル原病總説ヲ抜抄スル者ナリ西洋醫風近三
十年來大ニ變革スル者アルヲ知ルヘキ階梯ナリ

新藥百品考

坪井信良先生譯
全一卷近刻

和蘭醫官アッセンブレン子ル氏藥舖某生ノ需ニ應ニ其舖所藏ノ新藥
類四百九十四ヲ撰ヒ每品能毒用法等ヲ畧記シ初學ヲシテ其ノ品ハ某
ノ効アルヲ領解セシムル為ニスル所譯本全五卷中更ニ其最モ新奇ニ
ノ應用未タ世ニ詳ナラサル者百品ヲ抄摘スルナリ夫レ三港開市以來
蕃船相接シテ輻湊シ各々新ヲ呈シ寄ヲ貢ス而ノ齎ス所ノ藥品邦人ノ
耳目ニ慣サル者往々少ナカラス濟生ノ士大ニ之ヲ遺憾トス今此一書
一タヒ世ニ出ルキハ新奇ノ妙品猶慣手品ニ異ナルヲナク運用意ノ如
ク起死回生庶幾スヘキナリ
江左 老皂館主人謹識

老皂館發兌書目

博物新編	全三集	西醫畧論	全四冊
地球說畧	全三卷	内科新說	全三冊
聯邦志畧	全二卷	婦嬰新說	全二冊
六合叢談	四帙 十六卷	侃斯達寫	坪井先生譯全部 百卷餘近々出版
香港新聞	八冊	新藥百品考	同近刻 全四冊
中外新報	數卷	明百原論	同 全一冊
中外雜誌	數卷	英和辭書	大本 一冊
航海輿地圖	壹折	英文範	上下 二冊

右之外舶來新奇之書籍其外醫學所諸先生翻譯醫書并
開成所 官板御書籍類月々刊行希四方諸君子多披閱
元治甲子秋日 東都堅川三之橋 萬屋兵四郎

